

平成28年台風10号による水害に  
レオクラブが被災地支援活動

岩手県岩泉町



日本の太平洋近海を迷走して北上し、岩手県を直撃した台風10号は、岩泉町や久慈市に甚大な被害をもたらして日本海へ去った。本学レオクラブでは、岩手県のライオンズクラブからの要請を受け、仙台市のライオンズクラブの仲介のもと、岩泉町において十一月十二日・十三日の両日、被災家屋の泥かきや家具の運び出しのボランティア活動を行った。

平成28年は、これまでにないほどの数の台風が発生し、中でも台風10号は太平洋沖を迷走したあげくに本州を直撃し、特に岩手県北部から中部に甚大な被害をもたらした。

避難生活から仮説住宅での暮らしへと住民を追いやった。そして、住民だけでは進まない復興を支援しよう、全国からボランティアが駆けつける中、本学レオクラブも岩手・宮城両県のライオンズクラブのネットワークを介して、被災者支援の活動を実践することになった。

両日とも天候に恵まれ、十一年のレオクラブメンバーと一般募集した十二名の学生が、泥のかき出しや家具の運び出しに汗を流した。二日目の午後には、災害に負けないようにと開かれた地元のお祭り

に招待されたが、作業を途中で終わらせたくないというメンバーの要望で、予定した内容を終了してからお祭り会場の住民の方々と交流を深めた。この活動に同行して、

一緒に汗を流したライオンズクラブの皆さんからは、学生の活動に対し、「若い力はすばらしい、今後の活動に大いに期待します。」と高評価をいただいた。今回レオクラブの実

## 久しぶりの「学内献血」を実施



本学では約4年ぶりとなる学内献血をレオクラブ主催で実施することになり、十一月十五日・十六日の二日間、けやきホール2階のロビーを会場にして行った。

レオクラブの学生が授業の合間に交代で献血を呼びかけ、二日間での受付が二六七名、うち採血が一四三名だった。冬の寒い時期や夏の暑い時期になると献血者が毎年減少するが、血液を必要とする患者



さんにとって季節は関係なく、いつでも少しでも多く献血していただくことは、尊い命を守る大切な行為である。レオクラブで初の献血活動であり、また久しぶりの本学内での献血ということもあって、宮城県血液センターからの記念品であるカップラーメンに加え、ライオンズクラブからレトルトカレーと白飯が提供され、学生にとっては思わぬプレゼントになった。「久しぶりなのに、こ



行委員として企画・調整した情報福祉マネジメント学科の安藤稜くんは、「非常に疲れたけれど、被災地の皆さんの役に立ててうれしそうです。」と安堵と喜びをこみしめていた。

## ちょっと豆知識

“分類学の父”とされる18世紀の分類学者カール・フォン・リンネ（スウェーデン人）は、生物をグループ分けすることを考え、世界の国々に不公平にならないよう、口語として既に使用されておらず、そのため変化することが極めて少ないラテン語によって、属名と種の名前を列記して学名とすることを提案した。これにより「人」はホモ・サピエンス（知恵のある人）と命名され、現在唯一生き残っているホモ（ヒト）属のサピエンス（賢い）となったのである。

ちなみに、ライオンはパンテラ・レオという学名で、パンテラ（ヒョウ）属のレオ（ライオン）という意味である。